【令和三年度　自己評価・学校関係者評価報告書】

学校法人名倉学園
愛心幼稚園

１．教育目標

幼児期にふさわしい生活や遊びを通して、主体的・対話的に学ぶ環境を整え、幼児の興味や関心に基づいた実体験による学びや、友だちや教師との温かく共感的なかかわりから得られる信頼関係を大切にして、『生きる力』の基礎を養う幼児教育を目指している。

◎目指す人間像

・自分の周りのひとや環境に、愛情と関心をもってかかわろうとする
・見たり聞いたり感じたことを創意工夫して表現できる
・自分で考え人と話し合い力を合わせて物事にとりくむ

２．年間の重点目標・計画

園内での新型コロナウィルス感染拡大防止のため、‘密’を避ける等の必要な予防対策をとり、園内の安全面や衛生面を見直し、園児の遊びや学びの機会をできる限り確保できるように園生活や行事の方法を検討、工夫する。園生活の様子を、IT 機器も使用しながら保護者に伝え、家庭と連携しながら、コロナ禍での園児の心身の健やかな育ちを援助できるように努める。

３．評価項目の達成および取組み状況

評価項目	結　果	理　由
園児の遊びや生活の安全面で見直しが必要に感じられることを教職員間で共通理解を図り、解決策を考える	B	職員間で、各自のヒヤリハットの場面を共有し、解決策を考えることができた。園庭の大型遊具の安全面については、専門の業者等によるアドバイスを今後検討していきたい。
保育中の衛生管理の仕方を見直し、消毒作業や予防対策につい教職員間で検討していく	A	保育後の遊具の消毒に加え、トイレや保育室内の共有部分の消毒作業のチェック表を作成し、毎日欠かさずできるように全教職員で声をかけ合い徹底することに努めてきた。
‘密’を避けた園生活の過ごし方を具体的な方法で検討し、園児の心身の健康を保てるように工夫していく	A	各クラスを半分に分け、少人数のグループでの活動時間や遊びの時間を増やしたり、昼食時はパーテーションを設置し、黙食の励行などに努めてきた。園児にもマスク着用の大切さを伝え、家庭と連携してコロナ対策に取り組むことができた。
教育課程に基づいた指導計画の内容を、各学期末に見直しながら、教育の質向上に努める	B	コロナ禍でも、発表会、運動会等の大切な行事は、方法を工夫して実施し、園児が豊かな園生活を送れるように努めてきた。毎学期末に反省会を行い、教育内容を見直した。

４．学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結　果	理　　由
A	コロナ禍という、今まで経験したことのない状況の中で、園児の心身の健康の維持について真剣に考え、３つの‘密’を避ける園生活の方法を全教職員で検討し、実施してきた。その中で、園内の衛生面や安全面、教育内容についても改めて見直し、遊具や教具の出し方や安全な遊び方についても再確認することができた。

５．今後取り組むべき課題

課　題	具体的な取組み方法
安全管理	今後、大型遊具の安全面について専門業者等からアドバイスを得たりして、さらなる安全な園生活のあり方を、教職員間で共通理解を図っていきたい。
コロナ共存社会での新しい園生活に対して、保護者の理解と協力が得られるようにしていく	コロナ禍でも実施できる、保護者の園行事や保育参加の形を考え、IT 機器なども使用しながら、園の様子を伝えて、保護者同士の温かい交流の場を設けていく。
特別支援教育	園児の発達理解のため、個別の指導計画の作成を検討し、関係機関との連携についても検討していきたい。

評価基準　　A　十分に成果があった
　　B　成果があった
　　C　少し成果があった
　　D　改善が必要

６.学校関係者評価委員会の評価

今年度も昨年度に続き、新型コロナウィルスの感染の収束が見通せず、様々な行動が制限される中、日々の保育活動においても創意工夫がみられた。また、季節の行事に関しては、活動内容や表現方法を変更しながら実施に向けての努力がみられたが、密を避けるための観覧制限などで、保護者の理解を得る事が難しかった一面もあった。今後に向けては、保護者への説明なども含めて、更なる理解と協力が得られるように検討してほしい。